



また、導入にはお客様に充分にご理解いただき、いただいたレジ袋代金は、環境保全活動に有効に活用するなどを検討していきます。

バイオマスプラスチック容器の導入

—— 容器包装を見直して、使用抑制に取り組むとともに、容器の素材を環境負荷の少ないものにしていくことにも取り組んでいます。今回導入して



みたバイオマスプラスチックの容器は、トウモロコシを原料にした地球にやさしい資材といわれる「バイオマスプラスチック」を導入しました。

佐々木 石油からではなくトウモロコシなどの植物性原料を使っているため、サステナビリティ(持続可能)であり、最終的には二酸化炭素と水に分解されます。自然から生まれて、自然に還っていくという点で環境に配慮した資材と言えます。当社では卵やフルーツ用の容器として採用しています。

—— 普及活動にも力を入れていますね。

佐々木 バイオマスプラスチックの場合、一番の問題はコストが高いことです。いくら環境にやさしいといっても、それで値段が上がるようではお客様から支持されません。コストを下げる一番の方法は採用する業者が増えて生産量が増加すること、いわゆる量産効果によるコストダウンですが、そのためにもお客様や企業関係者をはじめたくさんの人にその良さを知ってもらう必要があると考え、積極的にPRしているわけです。最近では原油価格が高騰し、石油を原料としている製品とバイオマスプラスチック製品との価格差が相対的に縮まっているため、その点でも注目度が高まっています。

継続的に取り組んでいくクールビズ



—— 2005年に政府の呼びかけで始まった夏の軽装化「COOL BIZ(クールビズ)」ですが、ユニーでは今年度で3年目になります。

佐々木 当社の場合、政府の呼びかけより1年早く2004年から実施しています。6月から9月まで社員に対してノーネクタイを奨励し、エアコンも28度で設定しています。こういった運動は一過性のものであってはなりません。やはり継続していくことが大切でしょう。

一方、クールビズファッションの販売にも力を入れています。初めの頃はネクタイを外しただけというものが多かったのですが、最近は柄やカラー、テイストなどがとてもファッションナブルになりました。クールビズをもっと普及させる上で、こうした傾向は歓迎すべきだろうと思います。

—— クールビズに限らず、環境への取り組みは継続的であるべきということですね。

佐々木 当社でもいろいろな取り組みをおこなっていますが、今後

もやるべきことがたくさん出てくるでしょう。それを粘り強くやっていくことが大切です。最初の効果は小さなものかもしれませんが、それを継続していけばより大きな成果が得られると信じ、社員一丸となり、地域社会のお客様の協力も得ながら多面的にかつ積極的に取り組んでいきたいと思っています。

食育への積極的な取り組み

—— ところで平成17年7月15日から食育基本法が施行され、ユニーも毎月19日を「食育の日」として推奨していますが、この策定にあたった内閣府主催の食育推進会議には佐々木社長もメンバーとして参加されていますね。

佐々木 小売業を代表する形で参加し、さまざまな意見を申し上げました。小売業の場合、消費者であるお客様と直に接する機会が多いので、その分、食育に対する責任が大きいと考えたからです。食育は健全な食生活を実現していく上でも重要なことですが、不要な食材を買わない、捨てないといった環境面からもたくさんのメリットが望めます。

—— ユニーでは食育のための食事バランスカードを店内に置いたり、ホームページで「たべものがたり」を公開したりしているほか、小学生を対象にした食育体験学習を実施したりしていますね。

佐々木 やはり子供さんたちに食育や環境に対する意識を高めてもらうことがとても重要だろうと思います。なにしろこれからの世の中を作っていくのは子供さんたちですからね。小さいときから食に関する基本的な知識を学び、環境の大切さを理解しておけば、食育にしても環境にしてもより大きな成果が期待できます。

—— 「地産地消」の大切さもよく説いておられますね。

佐々木 その地域でとれたものをその地域で消費するのは、物流にかかるエネルギーが不要な分、環境にやさしいし、何よりその方がおいしいじゃないですか。とれたてのトマトなんかびっくりするくらいの味です。当社では食品リサイクル法の対策の一つとして2001年から愛知経済連と連携し、生ゴミを堆肥にし、栽培した作物を収穫し、店舗で販売する循環型リサイクルの実現に取り組んでいます。2004年にはとれた野菜を稲沢と一宮の店舗で通年販



売するまでになりました。安定供給とか相場とかいろいろな問題が絡んできますが、今後こうした取り組みを他店舗にも広げ、それぞれのエリアで「地域循環システム」を構築していきたいと思っています。環境に優しい循環型社会実現のため、ユニーはこれからもあらゆる可能性を追求していきます。

—— わかりました。今日はありがとうございました。